別紙様式（B4 横型）

平成３１年度福岡県立若松商業高等学校自己評価表（計画段階・実施段階）

学校番号 ２０

福岡県立若松商業高等学校長　　印

学　校　運　営　計　画（４月）			評　価（３月）
学　校　運　営　方　針	商業教育を通して、超スマート社会で生き抜く力を身につけさせるため、ＳＤＧｓの目標達成を目指す。また、地域社会に信頼され貢献する社会人を育てる。		
昨年度の成果と課題	年　度　重　点　目　標	具　体　的　目　標	
昨年度より業務改善及び働き方改革の一環として、出張復命書の記述の簡素化や提案シートの起用等を行い、先生方の仕事環境を少しずつ変えていくことができた。しかし、授業改善はもとより、生徒に得意技を習得させ自信と誇りを持たせるための具体的な取組までは実施できていない。 今年度は授業改善をはじめ、生徒に自信と誇りを持たせ、得意技を身につけさせる実践的な指導を行う。	「人間力」を身につけさせる	チャレンジ精神・コミュニケーション力・規範意識を育成し、持続可能な社会で生きていく力を身につけさせる。	
	本物を通しての実学教育を実践する	生徒に多くの体験活動を積極的に行い、本物に触れ実学を学ばせ多様性及びグローカルな考えを持った人材を育成する。	
	自己管理能力・自己責任を持たせる	スケジュール帳を活用し自己管理能力を育成するとともに、自分の行動に責任を持たせる。	
	チャレンジ精神を育む	学校行事等において様々なことを主体的に考えた上で取り組ませる。また、早期に明確な目的を持たせ計画的に努力する生徒を育成する。	
	生徒に寄り添う面倒見の良い指導の実践	生徒一人一人に寄り添い、学校が安心・安全で生活できる場所として提供できる教育環境をつくる。	
	いじめを生まない教育活動の推進	人権教育の充実と豊かな心を育む教育の充実。	
	社会・地域に開かれた学校づくり	若松の行政・商工会議所・企業・各自治会・大学等及び小中学校と連携し、地域に開かれた学校づくりに努める。	

評価項目	具　体　的　目　標	具　体　的　方　策	評　価		次　年　度　の　主　な　課　題
学習支援	基本的生活週間の確立	遅刻指導の徹底。また、欠課時数報告カードを有効活用し、生徒の欠席状況を把握する。			
	授業規律の確立	教務スタンダードに沿って、職員が共通理解のもと共通実践を推進する。			
	本物体験によるわかる授業の実践	学年や他分掌と連携し、生徒が本物に触れる機会の充実とともに「主体的・対話的で深い学び」の授業実践を行う。			
	学校行事等の効果的・効率的企画運営	本校のグランドデザインに示された教育方針に基づき、円滑な教育活動が行われるよう職員の協力体制を強化する。			
	校内研修の充実	全学年でのＳＳＴ導入や「主体的、対話的で深い学び」の実現、ＳＤＧｓ目標達成のため、校内研修を行う。			
	新たな研修体系の周知徹底	新たな研修体系のもと実施される基本研修について周知徹底を図ると共に様々な校外研修への積極的参加を促す。			
	学校ホームページ等の随時更新	校内での発行物の発行（かっぱニュース・部活動新聞「ファイト」など）や学校ホームページ、若商ブログの随時発信を行う。			
	効果的な学校訪問と出前授業の実施	機を得た学校訪問の計画立案し、出前授業では「商業」の魅力を伝えるため生徒による効果的な方法を実施する。			
生徒支援	服装頭髪指導及び挨拶指導の徹底	頭髪（結髪指導含む）や服装指導（スカート指導）の徹底と生徒会による朝の挨拶指導等の充実・強化			
	部活動加入生徒の増加と活動の充実	部活動体験週間の徹底指導等により、部活動加入率４０％を目標とし、活性化を図る。			
	生徒の居場所作りと豊かな心の育成	生徒のプラスの面を評価する指導及びランチスペースや廊下・階段の装飾等による豊かな心の育成。			
	各種委員会活動の充実	各種委員会の定例会議の開催と学校行事における各種委員会活動の充実			
	保健計画の実施による健康の保持増進	定期健康診断の円滑な実施による、生徒の健康状況の把握及び生徒の健康の保持増進に努める。			
	環境美化の向上	大掃除で美化点検を年６回（１学期３回、２学期２回、３学期１回）美化委員と共に行い、環境美化に努める。			
	委員会活動の活性化	保健委員会や美化委員会を計画的に開催し、生徒の自主的な活動を促す。			
キャリア支援	生徒の基礎学力の向上を目指す	生徒の学力向上に向けた指導や全学年で進路テストを実施する。			
	マナーやコミュニケーション力の育成	進路ガイダンス等で挨拶や礼、マナーを積極的に実施する機会を増やし、グループ学習や体験活動を取り入れる。			
	進路決定とその後のサポート	生徒の希望に添った進路を実現するために、生徒対象の個人面談や面接を実施する。			
第１学年	基本的生活習慣の確立	家庭との連絡を密接に取りながら，集団生活のルールとその必要性を理解させる。			
	授業を中心とした基礎学力の定着	授業を中心とした学習に取り組むことが、進路決定に向けての学力養成につながることを自覚させる。			
	進路意識の形成	日々のあいさつや制服のきちんとした着こなしが、社会に出るために必要なことであることを理解させる。			
第２学年	基本的生活習慣を確立	集団生活の規則を守り、規範意識を高める。また、スケジュール帳を活用し自己管理ができるよう指導する。			
	望ましい人間関係の構築	集団の一員である自覚を持たせ、学校行事に積極的に取り組むことで、学校生活を充実させる。			
	進路意識の定着	進路ガイダンスやインターンシップを通して職業や勤労について理解を深めさせ、進路目標を持たせる。			
第３学年	自信と誇りに満ちた生徒の育成	高い志を持たせ、資格や学校行事等にチャレンジさせ、成功体験に裏打ちされた自己有用感の高い生徒を育てる。			
	一人一人の適性に応じた進路指導	地域や企業が求めている生徒像と、家庭や生徒に寄り添った進路指導の有機的な結合を目指す。			
	コミュニケーション能力の育成	多様な価値観に基づき、社会人としてチームで動けるコミュニケーション能力を持った生徒の育成を目指す。			
人権教育	自尊感情の育成	自己を肯定し、他者への共感力を身に付けさせることで、自尊感情を大切にする生徒の育成をはかる。			
	人権・同和特設授業の充実	従来の計画だけにこだわらず、他者とのコミュニケーション能力や、多様な価値観への共感力を育成する。			
	人権教育に関する職員研修の充実	職員研修会を実施することにより、新たに制定された関連法規にも対応した統一感のある職員意識を醸成する。			
商業教育	地域から信頼される商業高校生の育成	地域と連携した実学を通し、商業高校生としてのマナーやコミュニケーション能力の育成を行う。			
	自信と誇りを持った商業高校生の育成	専門性深化により検定試験の合格へと導き、成功を体験させ、さらなる挑戦意欲を喚起させる。			
事　　務	教育環境の整備	予算の節約を進める（5%削減を目標）とともに、必要性の高い施設修繕・物品購入を適切に措置する。			
	生徒の就学支援	各学年と連携して生徒の経済状況の把握に努め、生徒の就学を適切に支援する。			